

[第904回ゼミ報告] 2025年6月20日号

イスラエルがイランを攻撃、対シランもイスラエルに反撃。常に熾り続ける中東地域、また米軍が軍事介入するか、ロシア対ウクライナが霞む!!

6月11日ゼミは、グレーバー『万物の黎明』第5章「いく季節もむかし」の前半(～p.211)を斎藤さんの報告で行いました。農耕が始まる前、流浪する採集民の世界でなく、定住型村落・町があり、従来の考古学はそれを無視していたが、王権へと変貌しつつある巨大な住居遺跡があった。コロンブス時代のカルフォルニア先住民は何百万人も住み、そこは「地中海性気候」の肥沃な土壌であった。カルフォルニアではドングリ・松の実を主食とし、北部では水産物を主食とするという、生態学的に効率的地域であり、ここで文化的分化が考察される。「文化圏」概念が生まれたのは北アメリカでの分析からであった。モースの考察では、環太平洋全体がかつては単一の文化的交通の領域であり、一定の間隔で航海者が横断と、確信していた。19世紀以前の北アメリカ西海岸先住民の分布は世界最大の地域だが、北部海岸と南部カルフォルニアでは生態学的・文化的に大きな違いがあった。北側は動産奴隷があるが、南側は奴隷を持たない。特にカルフォルニア北西部は儉約と簡素化、浪費・娯楽を嫌い仕事を賞賛する文化で、それはマックスウェーバーによるピューリタン精神に似ている。それに対し、北西部海岸先住民は集団の祭事で富を還元し、首長は自慢好き・虚栄心で地位を競い豪華な宴を繰り広げる。この2つの文化圏の差異は何か、経済的要因か、組織的要因か、文化的観念か。この全く異なる精神・制度の問題を解くカギは、奴隷制度にある。討論では、モースは「文化圏」を問題にしている。西海岸の北と南の違いとは。日本の縄文時代より前、環太平洋での船による文化的交流の地域としているのは重要な指摘。南北アメリカで現地人には免疫がないため、伝染病の蔓延で人口減少に。カルフォルニアは当時乾燥地帯ではなく、もっと肥沃であったのでは。ゴールドシュミットが、カルフォルニア先住民の所有制度をマックスウェーバーの「資本主義の精神」に結び付けるのには疑問。会場参加は松村さん・川口さん・高田、オンライン参加は小野さん・斎藤さん・竹内さん・後藤さん・田中さんの合計8名の参加でした。

* 6月25日(第4週)ゼミも、午後5時半(or 45分)から8時です。

・オンライン情報 Zoom: ID: 826 2240 7988 パスコード: 989844

* 6月25日(第4週)ゼミの報告者は高田に変更です。

***** ゼミ日程 *****

6月25日(水)午後5時半～8時 堺筋本町瓦町・アイクルの部屋

佐々木『マルクス 資本論』 1編 1章商品 3・4節 報告高田

7月9日(水)午後5時半～8時 堺筋本町瓦町・アイクルの部屋

グレーバー『万物の黎明』 5章 いく季節も・・・(後半) 報告斎藤さん

7月23日(水)午後5時半～8時 堺筋本町瓦町・アイクルの部屋

佐々木『マルクス 資本論』 1編 2章 交換過程 報告者未定

その後 9/10, 9/24, 10/8, 10/22, 11/12, 11/26, 12/10, 12/24

◇第三学科事務局/高田好章: ytakada@kcn.ne.jp 090-8658-3755

HomePage: <http://ysweb.g.dgdg.jp/ytakada/kisoken/> Pass: kiso